

明治3知識人の英語

上 村 俊 彦

Three Meiji-era Japanese Intellectuals and their English

Toshihiko UEMURA

Abstract

Inazo Nitobe, Tenshin Okakura and Kanzo Uchimura are three Meiji-era intellectuals whose thoughts published in English are highly regarded. After briefly reviewing their personal history and English learning experiences, I will examine their three English books, *Bushido*, *The book of tea*, and *How I became a christian*, by employing corpus-based approaches.

1. はじめに

新渡戸稲造（1862-1933）、岡倉覚三（1862-1913）（以下、岡倉天心）、内村鑑三（1861-1930）は、さまざまな西洋思想がもたらされるようになった明治時代（Reischauer, 1990, p.94）に、西洋思想と積極的に向き合うとともに当時の日本事情を英語で発信した日本人の代表として知られている。本稿では、彼らが生きた英文の特徴をコーパス言語学の観点から考察する。検証対象となる英文著書は、新渡戸（1900）*Bushido*、岡倉（1906）*The book of tea*、内村（1895）*How I became a Christian*とする。英文検証のために、彼らと同時代を生きたイギリスの女性探検家・作家Isabella Bird（1831-1904）の*Unbeaten tracks in Japan*とイギリス人職業外交官として明治日本に赴任した文筆家Ernest Satow（1843-1929）の*A diplomat in Japan*の英文著書との比較検討をおこなう。¹⁾

2. 明治3知識人

以下は、新渡戸、岡倉、内村が学んだ学校、英文著書前後の経歴等を略記²⁾したものである。

新渡戸 稲造（1862-1933）

1873（明治6）年	東京外国語学校入学
1877（明治10）年	札幌農学校入学
1881（明治14）年	札幌農学校卒業
1883（明治16）年	東京大学選科入学、同時に成立学舎にも通う
1884（明治17）年	ジョンズ・ホプキンス大学に入学
1887（明治20）年	ボン大学で農政、農業経済学を研究
1889（明治22）年	ジョンズ・ホプキンス大学名誉文学士号

- 1900 (明治33) 年 *Bushido: The soul of Japan* (Philadelphia: Leeds & Biddle Co.) 初版出版
1920 (大正9) 年 国際連盟事務次長に就任
1926 (大正15) 年 国際連盟事務次長を退任

岡倉 天心 (1862-1913)

- 1873 (明治6) 年 東京外国語学校入学
1875 (明治8) 年 東京開成学校 (1877 (明治10) 年改組後は東京大学) 入学
1880 (明治13) 年 7月東京大学文学部卒業、11月文部省に音楽取調掛として勤務
1887 (明治20) 年 東京美術学校 (現・東京藝術大学美術学部) 幹事
1906 (明治39) 年 *The book of tea* (New York: Duffield & Company) 初版出版
1910 (明治43) 年 ボストン美術館中国・日本美術部長に就任

内村 鑑三 (1861-1930)

- 1873 (明治6) 年 有馬学校入学
1874 (明治7) 年 東京外国語学校入学
1877 (明治10) 年 札幌農学校入学
1881 (明治14) 年 札幌農学校卒業
1895 (明治18) 年 *How I became a Christian* (東京: 警醒社/New York: Fleming H. Revell Company) 初版出版
1887 (明治20) 年 アマースト大学卒業、ハートフォード神学校入学
1888 (明治21) 年 ハートフォード神学校退学
1890 (明治23) 年 第一高等中学校嘱託教員
1891 (明治24) 年 不敬事件で第一高等中学校退職
1898 (明治30) 年 万朝報英文欄主筆
1901 (明治34) 年 『無教会』創刊
1903 (明治36) 年 日露非開戦論、戦争絶対反対論を『萬朝報』、『聖書之研究』に発表
『萬朝報』客員辞任

明治3知識人には、英語を東京外国語学校で学んだという共通点がある。なお、新渡戸と内村は札幌農学校、また新渡戸と岡倉は東京大学でも学んでいる。

夏目漱石 (1867-1916) の「語学養成法」によると、当時の高等教育は「英語ですべての学問を習う」ものであった。(夏目, 1911) 新渡戸、岡倉、内村の明治3知識人は、夏目よりも5～6年前に生れており、彼らが受けた高等教育も英語中心で行われたことが推測できる。なお、日本英語教育史学会によると、「1883 (明治16) 年4月、東京大学において英語による授業を廃止し、日本語を用いることに決定」したが実行は十分でなかったとのコメント書きがある。(日本英語教育史学会編「日本英語教育史 明治」) 新渡戸と岡倉は東京大学でも英語で授業を受けていた可能性が高い。(Jansen, 2000:p.460)

日本史研究で知られたEdwin O. Reischauer (1910-1990) は、著書“*Japanese*” (Reischauer, 1978) の中で「無教会派」のリーダーとしての内村 (p.221) と「アジアは1つ」を唱えた哲学者・美術史家としての岡倉 (p.415) に言及している。また、日本文学研究で知られているDonald Keene (1922～) の“*Meiji emperor*”では、教育勅語を巡る内村の不敬事件 (p.440) と岡倉の日清戦争後

の日本を取り巻く国際情勢に関するコメントが取り上げられている。両者には、新渡戸に関する記述はなかったが、明治3知識人に対する今日の認知度はいかがであろうか。

明治3知識人が国内外で今日どの程度知られているかを検証するために、新聞社、放送局、百科事典のウェブサイト³⁾のオンライン検索を試みた。(表1)

日本の新聞各社、NHKの各ウェブサイトで明治3知識人を検索すると、ばらつきがあるものの彼らに関する一定件数の情報コンテンツが認められた。一方、英米の新聞社、BBCのウェブサイトでの検索ヒット件数は相対的に低く、検索がヒットした場合でも氏名または著書名への言及程度に限定されている。(表1注記)

British Library Newspaper Articlesでは新渡戸50件、岡倉36件、内村4件、New York Times社記事では新渡戸79件、内村5件のヒットがあった。後者については詳細な検索が可能であった。New York Times社の新渡戸79件中51件は、新渡戸の国際連盟事務次長退任、第2次対戦前に反日感情の融和のための渡米、ビクトリア客死に至る1926年～1933年までの記事で、その多くは新渡戸が第2次世界大戦前の日米関係に関与していたことをうかがわせるものであった。また、同社の内村記事は、内村の死亡記事1件、宗教家としての内村の名前に数語で言及したものが4件であった。

オンライン英語百科事典については、内村のみが3つすべてのサイトで独立見出し扱いされていた。

表1. 明治3知識人の知名度

	メディア	言語	新渡戸	岡倉	内村
British Library Newspaper Archives	新聞	英	50	36	4
Chicago Tribune	新聞	英	0	0	0
Guardian	新聞	英	1 ¹	1 ²	0
Los Angeles Times	新聞	英	0	0	0
New York Times	新聞	英	79	0	5 ³
Washington Globe	新聞	英	0	0	0
朝日新聞	新聞	日	10	13	9
日経新聞	新聞	日	14	34	8
読売新聞	新聞	日	7	6	9
BBC	放送	英	1 ⁴	0	0
NHK	放送	日	15	10	24
Encyclopædia Britannica	百科事典	英	0	1	1
New World Encyclopedia	百科事典	英	1	0	1
Wikipedia	百科事典	英	1	1	1

注記

1. 『武士道』(新渡戸著)への言及。

Naoko Shimazu (2012) “Opinion The Fukushima report hides behind the cultural curtain”
The Guardian, July 6, 2012.

<https://www.theguardian.com/commentisfree/2012/jul/06/fukushima-report-disaster-japan>

“More than 100 years ago, Inazo Nitobe, a Japanese Quaker, attempted to explain the spiritual backbone of the Japanese that had propelled the country’s break-neck modernisation, by writing - in

English - the highly influential book, *Bushido (The way of the samurai)*, which argued for samurai values to be the model for a code of ethics governing the Japanese people.” (下線筆者)

2. 『茶の本』(岡倉著)のブックレビュー。

Classics corner *The Book of tea* by Kakuzo Okakura - review The Guardian, Sept. 11, 2011

<https://www.theguardian.com/books/2011/sep/11/book-tea-kakuzo-okakura-review>

(下線筆者)

3. 死亡記事 (Kanzo Uchimura DIES, Japanese Churchman; Graduate of Amherst Wanted Christianity in His Country Free From Missionaries TOKIO, March 28 (AP).— Kanzo Uchimura, Japanese alumnus of Amherst College, died here today of heart disease. He was an outstanding advocate of independence of the Japanese Christian Churches from foreign mission control.) 以外の4件は、宗教学家としての内村鑑三の氏名言及に留まる。(下線筆者)

4. 「日本の学者・政治家」としての新渡戸への言及に留まる。

BBC News Tuesday, “On tour with President Bush - Day Four,” February 19, 2002, 12:07

GMT <http://news.bbc.co.uk/2/hi/asia-pacific/1825878.stm>

“There was talk for example of Inazo Nitobe, the great Japanese scholar and statesman, and Yukichi Fukuzawa, one of the heroes of the Meiji Restoration, whose economic ideas transformed the world.”

(下線筆者)

3. 英文著書の分析

国立情報学研究所 (NII) の論文、図書・雑誌などの学術情報データベース・サービスCiNii⁴⁾の論文検索で、「新渡戸稲造」、「岡倉天心」、「内村鑑三」を検索すると、それぞれが721件、426件、766件のヒットとなった。キーワードに3つの書名を加えると、「新渡戸稲造」+「武士道」(108件)、「岡倉天心」+「茶の本」(36件)、「内村鑑三」+「余は如何にしてキリスト教徒になりしか」(5件)のヒットとなったが、多くの論文タイトルは人とその思想に関するものが主体であり、明治3知識人の書いた英文について論じたものではない。

新渡戸、岡倉、内村が書いた英文について論考しているのは、日本英語教育史学会の学術誌『日本英語教育史研究』掲載の今野(1988, 1989)の新渡戸稲造論、庭野(1989)の内村鑑三論などである。なお、英文学、英語教育の専門家である齊藤兆史(1958～)は、2冊の新書で英語学習の観点から新渡戸、岡倉について記述している。齊藤(2000)の『英語達人列伝』では、新渡戸(pp.3-26)と岡倉(pp.27-52)の独立章がある。齊藤(2003)の『英語達人塾』では、2章「音読」で新渡戸(pp.15-30)、9章「作文」で西脇順三郎とともに岡倉天心(pp.117-132)を取り上げている。

本稿では明治3知識人の3冊の英文著書(新渡戸：*Bushido*、岡倉：*Book of tea*、内村：*How I became a Christian*)の本文全体と同時代を生きた2名のイギリス人の著書(Satow：*A diplomat in Japan*、Bird：*Unbeaten tracks in Japan*)の本文全体とをコーパス言語学的手法を用いて比較検討する。

3.1 出現語彙

コーパスデータの比較分析をおこなうためには、コーパスデータのジャンル、トピック、文体

(口語、文語の別含む)、執筆または発信された時期などについて留意することが必要である。(Biber, Conrad and Reppen, 1988; Gablasova, Brezina and McEnery, 2017; Davies, 2012) 本稿では、同じ時代を生きた著者(明治3知識人と明治日本に滞在経験がある2名のイギリス人)が、明治日本をテーマにして書いた英文著書をコーパスデータとした。

表2は、コーパスデータ分析ソフトWordSmith V7(以下、WS7)で5つのコーパスデータを処理することで得られたtype(異なり語)数とtoken(延べ語)数である。明治3知識人の書いた英文著書は、2名のイギリス人の著書よりも短い。5つの英文著書の注書き等を除いた英文テキストの総type数、総token数は、少ない順に岡倉、新渡戸、内村、Bird、Satowであった。(表2) 岡倉のtype数を1としたそれぞれの比率は、新渡戸(1.49)、内村(1.79)、Bird(2.59)、Satow(2.73)であった。(小数点第2位四捨五入) また、岡倉のtoken数を1としたそれぞれの比率は、新渡戸(1.75)、内村(3.02)、Bird(6.12)、Satow(8.83)となった。(小数点第2位四捨五入)

表2. 英文著書の語数

	新渡戸	岡倉	内村	Bird	Satow
type	6,075	4,085	7,306	10,576	11,144
token	31,994	18,255	55,051	111,735	161,131

WS7のWordlist機能で出力された明治3知識人の英文著書の語彙リストから、100万語コーパス換算で頻度100回以上の出現頻度にあたる数値0.001以上の語彙を抽出することで各コーパスデータの出現頻度上位の語彙が特定できる。以下は、Wordlist中0.001以上の数値が付与された名詞を頻度順に並べたものである。このリストの検討作業は、新渡戸の「武士道」、岡倉の「茶」、内村の「キリスト教」を知るためのキーワードの絞り込みの参考となるだろう。なお、日本語由来の語彙は、新渡戸(*bushido, samurai*)、岡倉(*Zen, Rikiu*)に留まった。(下線部著者)

新渡戸 bushido, samurai, Japan, mind, honor, virtue, word(s), Japanese, moral, time, people, heart, self, part, spirit, character, death, love, soul, hand, woman (Appendix 1参照)

岡倉 flower, master, art, room, flowers, Zen, life, century, masters, water, day, man, Rikiu, school, cup, world, Chinese, spirit, place, Taoism, China, garden, guest, Japanese, leaves, nature, paint, work (Appendix 2参照)

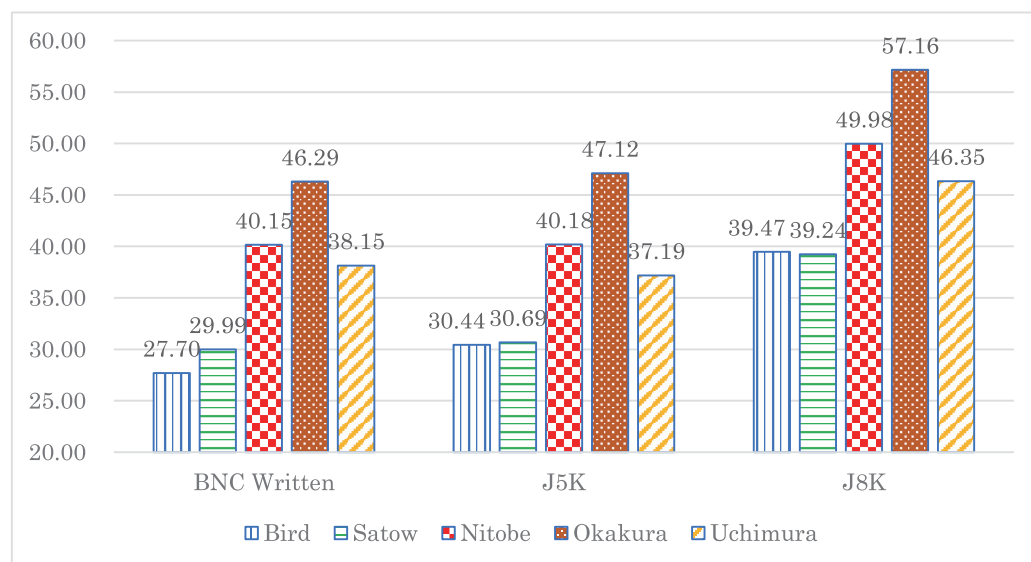
内村 man/ men, church, Christian, God, day, Christianity, heathen, life, heart, soul, world, time, home, land, work, meeting, missionary, prayer, college, people, way, Sunday, things, Christendom, spirit (Appendix 3参照)

表2から、5つの英文著書を読むために必要となる語彙数の見当はつくが、実際にどのような語彙が必要となるか検証するためには参照用の語彙リストが必要となる。本稿では、British National Corpusの書き言葉高頻度語リスト(BNC Written 4844語)、大学英語教育学会新JACET8000の頻度順1~5000位の5025語(J5リスト)、頻度順1~8000位の8026語(J8リスト)の3リストをWS7のstop listとして検証をおこなった。各語彙リストによる各英文著書の語彙のカバー率(%)は、(stop listで除外された語数)÷(全語数)×100で計算できる。

Typeベースの語彙カバー率は、BNC Writtenで27.70%～46.29%、J5Kで30.44%～47.12%、J8Kで39.24%～57.16%となった。(図1) この結果は、JACET8000(8000語レベル)の英語語彙力では、明治3知識人の英文著書の5割前後、2名のイギリス人の英文著書の4割程度の語彙理解に留まることを示している。なお、tokenベースの語彙カバー率は、語彙5000語レベルのBNC Writtenで69.79%～77.74%、J5Kで62.56%～67.90%、語彙8000語レベルのJ8Kで72.89%～76.10%となり、3つの語彙リスト間で大差のない数値となった。

O’Keeffe, McCarthya and Carte(2007)では、英文テキストの読みやすさの目安をテキストに占める既知語彙が90%以上としている。(pp.48-49) 英語語彙力8000語レベルの学習者が、typeベースで5割前後、tokenベースでも約3割の未知の語彙を含んだ各英文著書を読むことは負担が大きい。ただし、上記には固有名詞(日本語由来の地名、人名含む)、数詞、派生語などの語彙が含まれている。

図1. Type coverage



3.2 統語特性

各英文著書の統語特性を明らかにするために、5つの英文著書データに品詞タグ(Part-of-Speechタグ、以下、POSタグ)付けをおこないその統語構造をもとにデータ分析をおこなった。本稿では、ランカスター大学のConstituent Likelihood Automatic Word-tagging System(CLAWS)のCLAWS7タグによるPOSタグ付けをおこない、WS7のWordlist、collocate機能で分析した。POSタグ付きの英文著書データの頻度順語彙リストを出力すると、5つのデータすべてで一般動詞過去分詞(VVN)、不定詞または助動詞の後に続く動詞原形(VVI)、一般動詞過去形(VVD)、一般動詞現在分詞(VVG)、助動詞(VM)接続詞that(CST)、wh-語(DDQ)等が50位前後の頻度上位に並んだ。出現頻度の高いPOSタグをベースにすると、助動詞、完了形、進行形、受動態が共起する統語構造の分析が可能となる。

CEFRのレベルごとに英語の文法事項を体系記述する研究が進んでいる。Oxford、Penguin、Macmillanなどの習熟度別の英語リーダ(graded reader)の文法シラバスでは、完了形、進行形、受動態、助動詞を含む動詞句は、上級レベル(Level 5またはLevel 6)の文法事項である。(上村、

2014) また、イギリスのPearson PLCは、ヨーロッパ言語参照枠 (Common European Framework of Reference for Languages (CEFR))⁵⁾ を基準として英語学習者の到達レベルを測定するGlobal scale of Englishを提唱している。(Pearson PLC., 2017参照) 表3はGlobal Scale of English Grammarから、CEFRレベルとレベル識別力のある動詞句の文法事項を抽出してリスト化したものである。なお、各動詞句にはWS7で検索する際のPOSタグを付記している。

表3. GSEレベルと文法事項

GSE		動詞句レベル	POSタグ
C1	76-84		
B2+	59-66		
B2	59-66	未来完了	will_VM have_VHI *_VVN will_VM have_VHI been_VBN
		過去完了受動態	had_VHD been_VBN *_VVN
		過去完了進行形	had_VHD been_VBN *_VVG
B1+	51-58	仮定法過去完了	*_VM have_VHI *_VVN *_VM have_VHI been_VBN
		助動詞+完了 ¹	*_VM have_VHI *_VVN *_VM have_VHI been_VBN
		過去完了	had_VHD *_VVN had_VHD been_VBN
B1	43-50	現在完了 (受動態)	have_VH0 been_VBN *_VVN has_VHZ been_VBN *_VVN
		現在完了進行形	have_VH0 been_VBN *_VVG has_VHZ been_VBN *_VVG
A2+	36-42	現在完了	have_VH0 *_VVN has_VHZ *_VVN have_VH0 been_VBN has_VHZ been_VBN
A2	30-35		
A1	22-29		

注

1. 「仮定法過去完了」のPOSタグを詳細に定義していないため、「助動詞+完了」には一部の「仮定法過去完了」件数が含まれている場合がある。

3.1でみたように、3名の明治知識人と2名のイギリス人の著書の総token数には大きな違いが認められたが、現在完了、現在完了受動態の件数に関しては最も総token数が多かったSatowと3名の明治知識人の英文著書データに大きな相違が認められなかった。5つの英文著書データの現在完了の過去分詞については、beenよりも一般動詞の過去分詞形による件数が多かった。大規模な書き言葉と話し言葉を分析したBiber, et al. (1999) では、会話文を除いた文体 (フィクション、ニュース、学術) における過去分詞の出現頻度はbeenが一般動詞の過去分詞形より多いという調査結果ともの頻度が最も高い結果となっている。(p.463) 今回の分析結果との相違について、さらに検討したい。また、Birdデータでは他の4データと比べて、現在完了の出現頻度が顕著に多い。(表4) Birdデータは日本滞在経験を記した手紙に基づく著作であることが影響しているかどうかについては、今後の検証課題である。

表4. 現在完了

	Bird	Satow	新渡戸	岡倉	内村
現在完了 (been)	103	26	14	11	12
現在完了 (一般動詞)	232	52	64	34	36
現在完了受動態	49	10	11	13 ¹	6
現在完了進行形	7	0	1	0	1 ²

例

1. (岡倉) You have been loaded with virtues ...
2. (内村) So Theology I have been reviling at is No-Theology.

過去完了 (表5) については、3名の明治知識人と2名のイギリス人の著書の間で大きな傾向の違いが認められた。3名の明治知識人の著書における単純過去完了 (一般動詞、*been*の合計) の出現件数は50件以下であるのに対して、Bird (160)、Satow (1353) であった。過去完了は時の副詞節、従属節と強い共起関係にある。(Biber, et al., 1999: p.469) 今回のPOSタグを用いたモニタリングでは、この傾向は未確認であるため今後の確認が必要である。

表5. 過去完了

	Bird	Satow	新渡戸	岡倉	内村
過去完了 (一般動詞)	106	862	19	6	33
過去完了 (been)	54	491	9	6	10
過去完了受動態	23	339	4 ¹	2	2
過去完了進行形	7	19	1	0	3 ²

例

1. (新渡戸) ... as though it had been nursed on ...
2. (内村) ... We had been taxing our brethren ...

助動詞+完了やその後に受動態、進行形が続く複合動詞句 (表6) の件数は、Bird (37)、Satow (128)、新渡戸 (16)、岡倉 (5)、内村 (15) と、日本人著書データとイギリス人著書データとの間に違いが認められた。ただし、表6の「助動詞+完了+受動態」にはPOSタグ集計の都合で「助動詞+完了 (been)」の一部が含まれている。(新渡戸については、6件すべてが2重カウントである。) なお、未来完了 (will+完了) の事例は、3名の明治知識人、2名のイギリス人の英文著書データのいずれにもなかった。

3名の明治知識人の著書データに過去完了形や過去完了進行形が少ない要因には、過去形や過去進行形による代用が考えられる。(Hewings, 2013: p.10, p.14) 過去時制について5つの英文著書データを分析する際、過去形や過去進行形と時の副詞句との共起関係に留意した調査が必要である。

表6. 助動詞を含む動詞句

	Bird	Satow	新渡戸	岡倉	内村
助動詞+受動態	58	235	47	21	50
助動詞+進行形	2	1	0	0	1
助動詞+完了(一般動詞)	21	52	4	2	9 ¹
助動詞+完了(being)	13	54	6 ²	2	6
助動詞+完了+受動態	3	22	6 ²	1	0
助動詞+完了+進行形	0	0	0	0	0

例

1. (内村) ... services, which must have taken ...
2. (新渡戸) ... pledge, which would have been deemed ...
 (「助動詞+完了(being)」と「助動詞+完了+受動態」で、2重に計上。)

4. 終わりに

本稿ではコーパス言語学の観点から3名の明治知識人の英語著書の分析を試みた。英文著書データにPOSタグを付与し、コーパス分析ソフトWS7のWordlistやCollocate機能を使うことで、各著書データに現れる語彙や高頻度に現れる完了表現の特性が明らかになった。一方、現時点でのデータ分析では未解決の課題も明らかとなった。

各著書データの分析で得られた語彙や統語構造に関する研究成果をもとに本研究における未解決または未着手課題を解明することは、3名の明治知識人がどのような英文を書いたかについてより深く知る手立てであると共に彼らの英文ライティングの技能の到達レベルを明らかにする手段ともなる。今後は、明治3知識人の英語ライティング力の検証という形でこの研究テーマに迫っていきたい。

注

(URLは9月18日現在)

1. 明治3知識人と同時代を生きた2名のイギリス人については、以下を参照。

Bird, I. https://en.wikipedia.org/wiki/Isabella_Bird

https://en.wikisource.org/wiki/Author:Isabella_Lucy_Bird_Bishop

Satow, E. M. https://en.wikipedia.org/wiki/Ernest_Mason_Satow

http://www.dhs.kyutech.ac.jp/~ruxton/Meiji_Japan_through_the_Eyes_of_Ernest_Satow.pdf

2. 明治3知識人の略歴作成に使用した情報源。

新渡戸

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E6%B8%A1%E6%88%B8%E7%A8%B2%E9%80%A0>

http://www.newworldencyclopedia.org/entry/Nitobe_Inazo

<http://www.nitobe.jp/inazo/index.html>

岡倉

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B2%A1%E5%80%89%E5%A4%A9%E5%BF%83>

http://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/07_english/03_tenshin.html

内村

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%86%85%E6%9D%91%E9%91%91%E4%B8%89>

http://www.newworldencyclopedia.org/entry/Kanzo_Uchimura

<http://www.ndl.go.jp/portrait/e/datas/240.html>

3. 利用したサイト一覧

(英米新聞サイト)

British Library's newspaper collections

<http://www.britishnewspaperarchive.co.uk/help/about>

Chicago Tribune <http://www.chicagotribune.com/>

Gurdian <https://www.theguardian.com/>

Los Angeles Times <http://www.latimes.com/hp-2/>

New York Times <https://www.nytimes.com/>

Washington Glove <http://washingtonglobe.com/>

(日本新聞サイト)

朝日新聞 <https://www.asahi.com/>

日経新聞 <https://www.nikkei.com/>

読売新聞 <http://www.yomiuri.co.jp/>

(放送局)

BBC <http://www.bbc.com/>

NHK <http://www.nhk.or.jp/>

(オンライン百科事典)

Encyclopedia Britannica <https://www.britannica.com/>

New World Encyclopedia <http://www.newworldencyclopedia.org/entry/Encyclopedia>

Wikipedia https://en.wikipedia.org/wiki/Main_Page

4. CiNii論文ダウンロード機能については、「CiNii ArticlesではNII-ELS移行分を除くJ-STAGEの論文、機関リポジトリの論文等(約446万件)についてダウンロード可能なウェブページへのリンクを表示しています。今回の再開分を含めて約645万件の論文にアクセスすることが可能です。」という記述がある。

<https://support.nii.ac.jp/ja/news/cinii/20170410>

5. CEFRのレベルごとの文法事項については、Breakthrough (A1)、Waystage 1990 (A2)、Threshold 1990 (B1)、Vantage (B2) で規定されている。(https://www.coe.int/t/dg4/linguistic/DNR_EN.asp#P66_9447)。CEFRレベル (A1 ~ C1) を弁別する統語特性についてはHawkins and Filioivic (2012)、English Profileについては [Http://www.english-profile.org/](http://www.english-profile.org/) を参照。

参照文献

(英文)

- Biber, D., Conrad, S. and Reppen, R. (1988). *Corpus linguistics: Investigating language structure and use*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Biber, D., Johansson, S., Leech, G., Conrad, S. and Finegan, E. (1999). *Longman grammar of spoken and written English*. Harlow: Pearson Education.
- Bird, I. L. (2005). *Unbeaten tracks in Japan*. New York: Dover Publications, Inc. (Republication of the 2nd ed. of Bird, I. L. (1911). *Unbeaten tracks in Japan: An account of travels in the interior including visits to the aborigines of Yezo and the shrine of Nikko* by John Murray, London)
(e-text) <http://www.gutenberg.org/cache/epub/2184/pg2184.txt>
- BNC: Leech, G., Rayson, P. and Wilson, A. (n.d.). Companion website for: Word frequencies in written and spoken English: based on the British National Corpus. London: Longman.
http://ucrel.lancs.ac.uk/bncfreq/lists/2_3_writtenspoken.txt
- Davies, M. (2012). “Expanding horizons in historical linguistics with the 400-million word corpus of historical American English”. *Corpora 2012*, Vol.7 (2). Pp.121-157.
- Gablasova, D., Brezina, V., and McEnery, T.(2017). “Exploring learner language through corpora: Comparing and interpreting corpus frequency information”. *Language Learning*, Volume 67, Issue S1 pp 130-154.
- Hawkins, J.A. and Filipovic, L. (2012). *EnglishProfile studies 1: Critical features in L2 English specifying the reference levels of the Common European Framework*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Hewings, M. (2013). *Advanced grammar in use*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Jansen, M. B. (2000). *The modern Japan*. Cambridge: Belknap Press.
- Keene, D. (2002). *Emperor of Japan: Meiji and his world, 1852-1912*. New York: Columbia University Press.
- Lancaster University (n.d.) Centre for Computer Corpus Research on Language, CLAWS part-of-speech tagger for English.
<http://ucrel.lancs.ac.uk/claws/>
- Nitobe, I. (1900). *Bushido, the soul of Japan*. (Republication in 2012 by CreateSpace Independent Publishing Platform)
(e-text) <http://www.gutenberg.org/files/12096/12096-0.txt>
- Okakura, T. (1906). *The book of tea* (Republication in 2015 by CreateSpace Independent Publishing Platform)
(e-text) <http://www.gutenberg.org/cache/epub/769/pg769.txt>
- O’Keeffe, A., McCarthy, M. and Carter, R. (2007). *From corpus to classroom: Language use and language teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Pearson PLC (2017) Global scale of English: Grammar learning objectives for adult learners
https://prodengcom.s3.amazonaws.com/GSEGrammarLO_updated_April_2017.pdf#public
- Reischauer, E. O. (1978). *The Japanese*. Tokyo: Tuttle Publishing.
- Reischauer, E. O. (1990). *Japan: The story of nation*, 4th ed. Tokyo: Tuttle Publishing. Tokyo University of Foreign Studies
- Satow, E. M. (1921). *A diplomat in Japan: the inner history of the critical years in the evolution of Japan when the ports were opened and the monarchy restored*. London: Seeley, Service & Co. Limited (Reproduction by Middletown: Ulan Press in 2012)

(e-text) <https://archive.org/details/in.ernet.dli.2015.174127>

Uchimura, K. (1895). *How I became a Christian: Out of my diary*. Tokyo: Keiseisha. (Cornell University Digital Collections)

(e-text) <https://archive.org/details/diaryjapanesec02uchigoog>

(和文)

今野鉄男 (1988) 「新渡戸稲造博士英語学習研究序説」『日本英語教育史研究』Vol. 3. pp.105-115.

今野鉄男 (1989) 「新渡戸稲造博士の英語教育論」『日本英語教育史研究』Vol. 3. pp.99-110.

JACET8000：大学英語教育学会基本語改訂特別委員会編著 (2016) 『大学英語教育学会基本語リスト新JACET8000』東京：桐原書店.

夏目漱石 (1911) 「語学養成法」岩波書店漱石全集編集部編 (1996) 『漱石全集』第25巻 東京：岩波書店. pp.391-400.

庭野吉弘 (1989) 「内村鑑三の初期英学修養-高崎時代から東京外国語学校時代まで」『日本英語教育史研究』Vol. 3. p.139-153.

日本英語教育史学会 (n.d.) 「日本英語教育史年表 明治」. <http://hiset.jp/n-meiji.htm>

斎藤兆史 (2000) 『英語達人列伝 あっばれ、日本人の英語』東京：中央公論新社.

斎藤兆史 (2003) 『英語達人塾 極めるための独習法指南』東京：中央公論新社.

上村俊彦 (2014) 「グレイディッド・リーダーの語彙と文法」長崎県立大学国際情報学部『研究紀要』第15号 pp.171-184.

Appendix 1

Nitobe	Freq.	%
BUSHIDO	94	0.29
SAMURAI	66	0.21
JAPAN	57	0.18
MIND	54	0.17
HONOR	52	0.16
VIRTUE	49	0.15
WORD	47	0.15
JAPANESE	46	0.14
MORAL	44	0.14
TIME	44	0.14
PEOPLE	41	0.13
HEART	39	0.12
SELF	38	0.12
PART	34	0.11
SPIRIT	34	0.11
CHARACTER	33	0.10
DEATH	33	0.10
LOVE	33	0.10
SOUL	33	0.10
HAND	32	0.10
WOMAN	31	0.10
WORDS	31	0.10

Appendix 2

Okakura	Freq.	%
FLOWER	77	0.42
MASTER	67	0.37
ART	62	0.34
ROOM	59	0.32
FLOWERS	44	0.24
ZEN	41	0.22
LIFE	39	0.21
CENTURY	37	0.20
MASTERS	34	0.19
WATER	26	0.14
DAY	25	0.14
MAN	25	0.14
RIKIU	25	0.14
SCHOOL	23	0.13
CUP	21	0.11
WORLD	21	0.11
CHINESE	20	0.11
SPIRIT	20	0.11
PLACE	19	0.10
TAOISM	19	0.10
CHINA	18	0.10
GARDEN	18	0.10
GUEST	18	0.10
JAPANESE	18	0.10
LEAVES	18	0.10
NATURE	18	0.10
PAINT	18	0.10
WORK	18	0.10

Appendix 3

Uchimura	Freq.	%
MAN	180	0.33
CHURCH	179	0.32
CHRISTIAN	174	0.31
GOD	149	0.27
DAY	114	0.21
CHRISTIANITY	111	0.20
HEATHEN	101	0.18
LIFE	92	0.17
HEART	87	0.16
SOUL	84	0.15
MEN	83	0.15
WORLD	76	0.14
TIME	74	0.13
HOME	73	0.13
LAND	70	0.13
WORK	70	0.13
MEETING	66	0.12
MISSIONARY	63	0.11
PRAYER	61	0.11
COLLEGE	60	0.11
PEOPLE	58	0.10
WAY	58	0.10
SUNDAY	56	0.10
THINGS	54	0.10
CHRISTENDOM	53	0.10
SPIRIT	53	0.10

